

情報満載『プラクティカル ジーニアス英和辞典』の特長



東森 勲

■発信型(1)：〈語義の拡張〉

語義の配列順はよく使われる使用頻度を用いた。例えば，web ④ の語義「1 (インターネットの) ウェブ 2 クモの巣 3 クモの巣の状のもの 4 織布 5 水かき」では，使用頻度によりネットでのウェブ (web) の意を第一義とした。

次に，単語がもつ複数語義のつながりをより理解しやすいようにも工夫した。主要な語義をⅠ，Ⅱ，Ⅲとグループ分けし，太字の語義を再検討した。例えば，break ⑧ では「こわす」を中心義として明示した：Ⅰ物を2つ以上のものにこわす Ⅱ計画などをこわす Ⅲ約束・秘密を破る Ⅳ心の正常な状態をこわす Ⅴ癖・野生などをこわす Ⅵその他。

■発信型(2)：【使い分け】

G5語法欄のような詳細な記述でなく，2つの表現の使い分けを簡潔に例示し，英語発信力の増強を目指した。

① (使い分け) [politician と statesman]

politician は「(一般的な) 政治家」の意。

statesman は「(国を代表するような高い見識をもつ) 政治家」の意。

・ He is a corrupt *politician* [*statesman]. (彼は墮落した政治家だ)

・ Winston Churchill was a great *statesman*. (ウィンストン＝チャーチルは偉大な政治家だった)

② (使い分け) [first と at first]

「まず第一に」の意では first, at first は「最

初のうちは」の意で later (後で) と対照的に用いる。

・ *First* [*At first], put the coin in the slot and press the button. (最初に料金投入口にお金を入れて，ボタンを押してください)

・ [*At first* [*First], she seemed cool, but I found that she was a good person. (初めのうち彼女は冷たい人に見えたが，よい人であることがわかった)

■発信型(3)：日本発

『プラクティカルジーニアス英和辞典』(以下，PG)は高校生のための新時代の発信型・情報満載型英和辞典。英語を読むだけでなく，海外発信にも使用可能。**日本発**マークを付して示した用例は日本のことを発信する文例で「用例分類リスト」(p. xvi)が役立つ。今，話題の天皇生前退位の関連では「天皇」**日本発**を，次に日本文化を代表する「漫画」**日本発**を挙げる。

● emperor

The Japanese Constitution defines *the Emperor* as a “symbol” of the nation with no political authority. (日本国憲法では天皇は国の「象徴」と規定されており，政治的権限はありません)

補足：『ジーニアス和英辞典 第3版』(以下，Gje3)の「天皇」に，「象徴としての天皇」は an emperor, the symbol of Japan [the nation]とある。PG, Gje3の両辞書利用が役立つ。

● comic

In Japan, *manga* [*comic books*] have become highly cultivated literary works. It is not unusual to see white-collar businessmen in suits reading *manga* magazines in trains. (日本では漫画は高度に発達した文芸作品となっています。スーツ姿のサラリーマンが電車で漫画雑誌を読む光景も珍しくありません)

補足: Gje3の「漫画」に、「新聞の4コマ漫画 *four-frame comic strips* in a newspaper」「私は日曜日の夕方はテレビで漫画を見る *I watch cartoons on TV on Sunday evenings.*」とあり。comic strip, cartoonなども漫画の英訳。PG, Gje3を併用することで語彙増強が可能。

■発信型(4): ジョーク

ジョークは英語学習を楽しくし、英米圏ではコミュニケーション潤滑油として重要であるため用例として取り入れた。

①音の類似によるジョーク (ダジャレ)

● dam

“What did the fish say when he hit the wall?”
“*Dam!*” 「壁にぶつかった時、魚は何と言ったでしょう?」「ダムだ!」

解説: dam と damn (ちくしょう) の発音が同じことによるしゃれ。

実践指導例: 巻末付録「発音注意の語一覧」にある「綴りが異なる同音語」を参考に、例えば、He is a little pale / pail. (彼は少し顔色が悪い・小さいバケツです) のようなジョークを生徒に作らせ語彙力増強をはかる。

②知識を用いて計算するジョーク

● call

“What does a cannibal *call* a telephone book?”
“A menu.” 「人食い人種は電話帳を何と呼ぶか?」「メニュー」

解説: 人食い人種は人を食べ、電話帳には人名があり、食事リスト、すなわち、メニューと理解

される。

実践指導例: この質問に対する答えの選択問題 (1. A menu 2. Yellow Pages 3. A dictionary) を作成し、最も適当なものを選ばせる。

③ことば (スベルなど) に関わるジョーク

● capital

“What is the *capital* of America?” “The letter A.” 「アメリカの首都は?」「Aの文字」

解説: capital には首都と大文字の意があり、質問は通例、現実世界で首都はどこかを探すが、答えはことばの世界 (スベリング) で探し、大文字 A が正解。

■情報満載型(1): [いろいろな…]

ひとかたまりの知識として [いろいろな…] を設け、語彙増強に役立つようにした。例えば、e-mail 関連語彙情報としては、[関連] [いろいろな email 用語] に attachment 添付 ファイル / emoticon 顔文字 / forward 転送 (略 FW) / in-box 受信トレイなどを示した。

■情報満載型(2): 巻末の大学入試対策情報

①〈文法〉: 一般的な文法問題と見なされる記述は巻末にまとめた。例えば、本文中に、「give 他 1 [give (A) B=give B (to A)] 〈人が〉 (A 〈人〉 に) B 〈物・金〉 を (無償) で与える」とあり、巻末の付録の「文法のまとめ」に、「3.3 目的語を2つとる動詞 (1) give AB のグループの特徴」で「A と B の位置を入れ替えると give B to A となる」とある。

②〈語形成〉: 語頭要素 (例えば、Mac (〜の息子) の意で MacDonald は「Donald の息子」) と語末要素 (-ish など) にわけ、語要素リストは役割の似たものをまとめた。

③〈発音〉: 過去のセンター試験問題を踏まえ、発音・アクセントなど注意すべき語をまとめた。

(ひがしもり いさお・龍谷大学文学部教授)